



# たからmikke通信



No. 25

発行 授業研究部

## 「心のノート」への意見・その1

(第3種郵便物認可)

北 陸 中 日

### 北陸中日特許

## 道徳教材「心のノート」を読む

高橋哲哉・東大教授



高橋哲哉氏 1956年福島県生まれ。東大大学院総合文化研究科教授（哲学）。ホロコースト生存者らの証言集「ショア」などドキュメント映画を紹介した。ことし3月、道徳教育強化を批判した「心のノート」と戦争」（晶文社）を出版。著書に「逆行のロゴス」（未來社）、「デリター脱構築」「戦後責任論」（講談社）、「歴史／修正主義」（岩波書店）など多数。

長崎、沖縄での中学生による殺人事件を受け、少年の「心」が再び、論議されている。注目されるのが文部科学省が作成し、本格活用されつつある道徳補助教材「心のノート」だ。道徳荒唐の救い手と評価される一方、「国定教科書の復活」という批判も強い。この教材を「癒やし系ナショナリズム」と危険視する東大の高橋哲哉教授に問題点を語ってもらった。次回は作成に携わった河合肇雄文化庁長官に聞く。（田原拓治）

「光ばかり、批判精神つぶす」

全国の小中学生二百万 低学年用の「あなたのご  
人に配布された贈った心。その中にないしよをこ  
トセラ」ともいえる「心の ノート」だが、その内容は「癒やし系ナショナリズム」と危険視する東大の高橋哲哉教授に問題点を語ってもらった。次回は作成に携わった河合肇雄文化庁長官に聞く。（田原拓治）

## 子は「いいこと書いてある」

全く異なるもの。すべてを自然に受けるものとして、それに感謝の念を持つというものが繰り返されている。結局、生きにくい社会を憂える批判精神は無視され、不平不満を言っべきじゃない、という趣旨が繰り返される。

祖國愛の負の歴史に触れず  
中学生用に異型なのは家族や学校、さらには地域や郷土、さらに國へと、集団が同心内に展開される構成だ。そこでは「伝統と発展」が強調される。「富士山が青森に」ときり描かれているが、ここには在日朝鮮人などマイノリティーの存在は一切触れられていない。贅言が家庭から郷土を経て國へと自然にのびていくのが健全なものと描かれている。だが、祖國愛が二度の世界大戦や植民地支配を起したという負の歴史の記憶がまったく見当たらない。

「戦前の修身では「清明心（きよきあまきこころ）」が強調された。利己心を捨て、感謝の気持ちで國に報せよという精神だ。全体に「れを想せよ」られる

『北陸中日新聞・二〇〇三年八月二日』

